

第62期

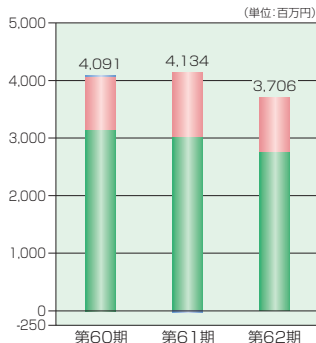
# 株主通信

2022年4月1日 ▶▶▶ 2023年3月31日

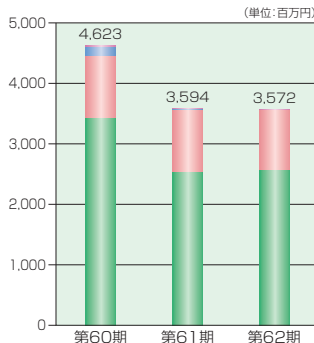


## 業績ハイライト

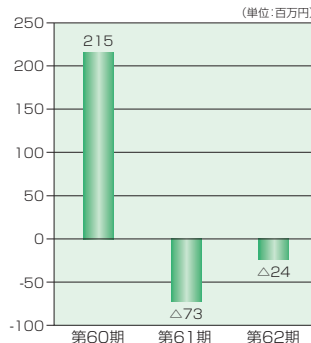
■ 受注高 (単位:百万円)  
 ■ 気泡コンクリート工事 ■ 地盤改良工事 ■ その他工事



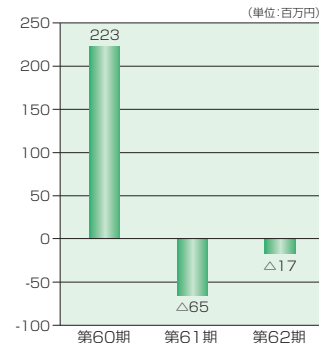
■ 売上高 (単位:百万円)  
 ■ 気泡コンクリート工事 ■ 地盤改良工事 ■ その他工事 ■ 商品販売



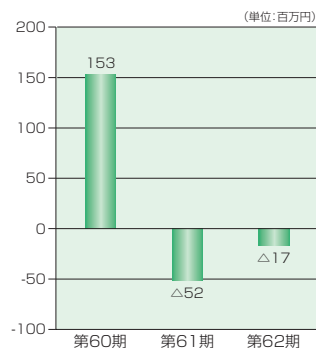
■ 営業利益又は営業損失(△) (単位:百万円)



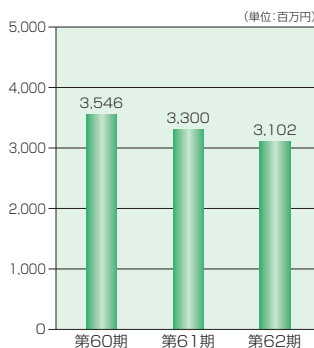
■ 経常利益又は経常損失(△) (単位:百万円)



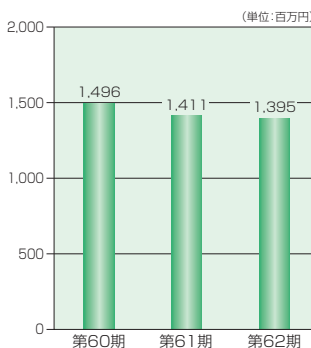
■ 当期純利益又は当期純損失(△) (単位:百万円)



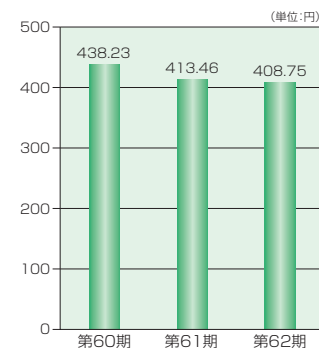
■ 総資産 (単位:百万円)



■ 純資産 (単位:百万円)

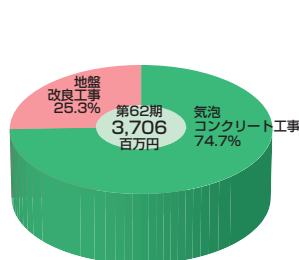


■ 1株当たり純資産 (単位:円)



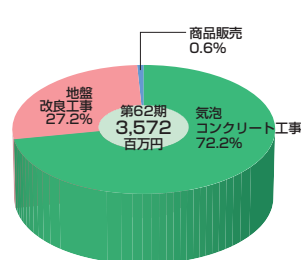
■ 受注高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第62期
軽量盛土工事	1,335
管路中詰工事	767
空洞充填工事	666
気泡コンクリート工事計	2,769
地盤改良工事	937
その他工事	—
計	3,706



■ 売上高内訳及び構成比 (単位:百万円)

	第62期
軽量盛土工事	1,325
管路中詰工事	743
空洞充填工事	509
気泡コンクリート工事計	2,578
地盤改良工事	972
その他工事	—
商品販売	22
計	3,572



## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

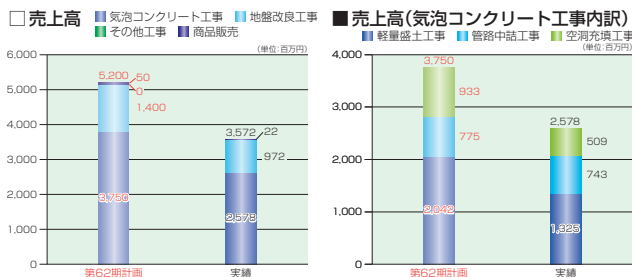
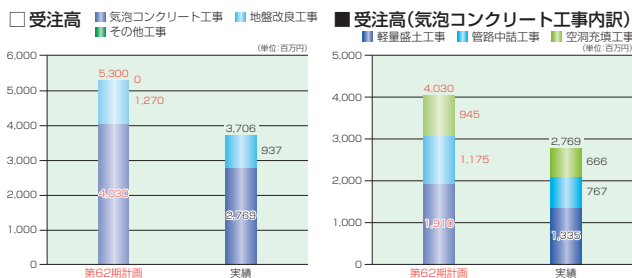
第62期株主通信をお届けするに当たりご挨拶申し上げます。

第62期事業年度におきましては、前事業年度からの繰越工事が多くありましたが、発注者や元請けの都合による大型工事の施工の中断や工期のずれ込みがあり、また第62期事業年度内の受注高が減少したことで売上高が低迷し、加えて不良工事の発生による工事原価の増加もあり、コスト低減に全社一丸となり努力いたしましたが、誠に遺憾ながら二期続けての赤字決算の計上となりました。

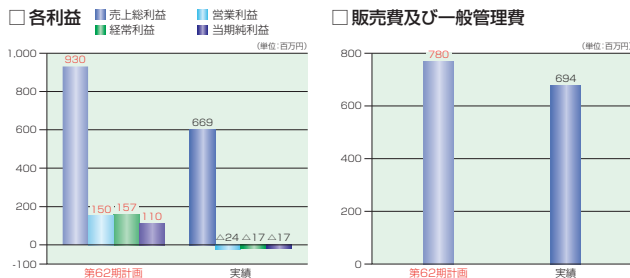
昨年の東京証券取引所の市場区分の見直しにより、当社はスタンダード市場上場維持基準のうち流通株式時価総額基準を充たしていないため、企業価値を向上させるべく第62期事業年度を初年度とする中期経営計画を公表いたしました。初年度から数値計画に対し大きく下に乖離したことで、再度当社を取り巻く環境を精査し、2023年5月に第63期事業年度及び第64期事業年度の数値計画を大幅に見直しました。

第63期事業年度は、収益改善に注力するとともに、伸び悩んでいる受注高・売上高の増加をはかるため、建設コンサルタントを中心とした上流営業を強化し、当社独自技術の普及及び設計折込みを推進してまいります。また、「i-Construction」の推進に伴い、継続的に取り組んでいる生産性向上のための現場ICT化の実用化を早め、併せて業務効率化のための社内業務システムを構築し、働き方改革を推進して利益確保に取組み、業績回復をはかってまいります。

### ■第62期事業の概況



今後とも株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



### ■次期の見通し

第63期事業年度の建設業界におきましては、前事業年度比で政府建設投資・民間建設投資ともに増加し、名目建設投資全体としては微増することが見込まれておりますが、引き続き建設資材価格の上昇や労務単価の高止まりなどによるコスト上昇、加えて受注競争の激化が予測されます。

当社といたしましては、営業展開の強化をはかり受注量の確保と施工効率の向上に取組み、収益性の改善に努めてまいります。

次期の業績につきましては、主力の気泡コンクリート工事が軽量盛土工事、管路中詰工事を中心に需要が見込まれ、また地盤改良工事は受注競争が激しいながらも堅調な需要が見込まれることから、受注高4,000百万円、前事業年度からの繰越工事が多いことから売上高4,300百万円、利益面では施工能力強化のための工事社員増員計画による人件費の増加を見込み、営業利益100百万円、経常利益100百万円、当期純利益70百万円を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本株主通信作成時において入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おきください。



代表取締役社長  
花岡 浩一

## 財務諸表（要約）

## 貸借対照表

(単位：千円)

区 分	第61期 2022年3月31日現在	第62期 2023年3月31日現在	増減額 (対前期)
<b>資産の部</b>			
流動資産	1,626,208	1,445,916	△180,292
固定資産	1,674,654	1,656,361	△18,293
有形固定資産	1,412,441	1,374,960	△37,481
無形固定資産	10,113	26,549	16,436
投資その他の資産	252,098	254,850	2,752
資産合計	3,300,862	3,102,278	△198,584
<b>負債の部</b>			
流動負債	1,111,388	945,328	△166,060
固定負債	778,024	761,588	△16,436
負債合計	1,889,412	1,706,917	△182,495
<b>純資産の部</b>			
株主資本	1,410,733	1,393,017	△17,715
資本金	209,200	209,200	—
資本剰余金	180,400	180,400	—
利益剰余金	1,022,686	1,004,990	△17,696
自己株式	△1,553	△1,572	△19
評価・換算差額等	716	2,343	1,627
純資産合計	1,411,449	1,395,360	△16,088
負債・純資産合計	3,300,862	3,102,278	△198,584

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位：千円)

区 分	第61期 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	第62期 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)	増減額 (対前期)
売上高	3,594,613	3,572,124	△22,489
売上原価	2,991,560	2,902,540	△89,020
売上総利益	603,053	669,583	66,530
販売費及び一般管理費	676,331	694,489	18,158
営業損失(△)	△73,278	△24,906	48,372
営業外収益	16,088	15,026	△1,062
営業外費用	8,666	7,407	△1,259
経常損失(△)	△65,856	△17,286	48,570
特別利益	—	—	—
特別損失	0	0	0
税引前当期純損失(△)	△65,856	△17,286	48,570
法人税、住民税及び事業税	2,141	2,161	20
法人税等調整額	△15,930	△1,752	14,178
当期純損失(△)	△52,066	△17,696	34,370

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

区 分	第61期 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	第62期 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)	増減額 (対前期)
営業活動による キャッシュ・フロー	186,122	232,829	46,707
投資活動による キャッシュ・フロー	△105,479	△119,839	△14,360
財務活動による キャッシュ・フロー	△13,614	△44,779	△31,165
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	67,028	68,210	1,182
現金及び現金同等物 の期首残高	663,156	730,184	67,028
現金及び現金同等物 の期末残高	730,184	798,394	68,210

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

第62期 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・ 換算差額 等合計		
		資本 準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			利益剰余金 合計						
					別途 積立金	固定資産 圧縮積立金	繰越利益 剰余金							
当期首残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	591	113,044	1,022,686	△1,553	1,410,733	716	716	1,411,449	
当期変動額														
固定資産圧縮積立金取崩							△105	105	—	—			—	
当期純損失(△)								△17,696	△17,696	△17,696			△17,696	
自己株式の取得									△19	△19			△19	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											1,627	1,627	1,627	
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	△105	△17,590	△17,696	△19	△17,715	1,627	1,627	△16,088
当期末残高	209,200	180,400	180,400	24,050	885,000	485	95,454	1,004,990	△1,572	1,393,017	2,343	2,343	1,395,360	

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 第62期決算のポイント

## ポイント①受注高

気泡コンクリート工事の各工種の受注高は、空洞充填工事の受注高が前事業年度比20.0%増となりましたが、気泡コンクリート工事市場の中で市場規模が大きい軽量盛土工事が、見込んでいた大型工事の発注遅れなどにより前事業年度比20.5%減、管路中詰工事も見込んでいた一部大型工事の元請けからの発注時期の翌事業年度へのずれ込みがあり前事業年度比2.9%減となったことから、気泡コンクリート工事全体の受注高は前事業年度比8.5%減(計画達成率68.7%)となりました。

地盤改良工事の受注高は、受注競争の激化から見込んでいた複数の大型工事の失注などにより、前事業年度比15.7%減(計画達成率73.8%)となりました。

## ポイント②完成工事高

気泡コンクリート工事の各工種の完成工事高は、管路中詰工事で前事業年度比0.3%減、空洞充填工事で前事業年度比14.4%減となりましたが、軽量盛土工事は前事業年度からの繰越工事が多かったことにより前事業年度比10.1%増となり、気泡コンクリート工事全体の完成工事

高は前事業年度比1.3%増(計画達成率68.7%)となりました。

地盤改良工事の完成工事高は、受注高の減少により、前事業年度比3.3%減(計画達成率69.4%)となりました。

## ポイント③売上総利益

地盤改良工事で発生した不良工事による工事原価の増加がありましたが、建設資材価格上昇分の請負金額への価格転嫁など工事原価の低減に努めた結果、完成工事総利益率が前事業年度に比べ2.0ポイント改善し、商品販売なども含めた売上総利益は前事業年度比11.0%増となりましたが、売上高不足により計画達成率は71.9%となりました。

## ポイント④営業損失

前事業年度に引き続き、常勤役員の役員報酬や年俸制の幹部社員の年俸の減額の実施を含め、販売費及び一般管理費のコスト低減に努めましたが、売上総利益で販売費及び一般管理費が吸収出来ず、営業損失を計上する結果となりました。

## トピックス

### 1. 釧路湿原に当社の

#### 「気泡混合軽量土(エアミルク)」が採用

国の国土強靱化計画の一環として掲げられていた北海道横断自動車道(道東自動車道)が2024年度の阿寒IC～釧路西IC(延長17km)の開通をもって全線開通の見通しとなっています。当該区域は津波浸水想定区域に指定されており、釧路湿原という超軟弱地盤上に5.0mの高盛土をするにあたり、特に橋梁の橋台部及びその背面アプローチ部では、自重による沈下を防ぐため、強固な地盤改良等の対策が必要とされました。そこで採用されたのが当社の気泡混合軽量土(エアミルク)による軽量盛土工法です。阿寒IC～釧路西IC間で7橋、それぞれの兩岸橋台背面アプローチ部の合計14箇所を今年度で施工完了いたします。



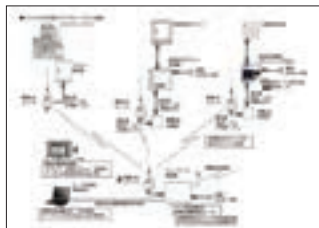
施工完了写真



施工位置図

### 3. FCB工法のICT施工管理システムを開発

気泡コンクリート工法の主要工法であるFCB工法の生産性向上のため、情報通信機能を備え、施工管理情報の一元化や各種帳票作成の自動化などを可能としたICT施工管理システムを開発しました。現在、現場テスト段階であり早期の市場投入に向けて取組んでいます。建設業界の課題である生産性の向上及び働き方改革を解消すべく今後もICT施工管理を推進してまいります。



ICT施工管理システム概念図



施工状況

### 2. 広報活動を強化

#### (技術・工法セミナーの開催、展示会への出展)

設計コンサルタント会社に対して、当社技術の有効性や用途、設計手法等を紹介し、当社の技術と工法を広く認知してもらうための活動(全国17か所、北海道から鹿児島まで)を行いました。また、新規顧客の獲得、新規分野への参入を目的とし、主要な展示会への出展(地盤技術フォーラム、建設技術展近畿、ハイウェイテクノロジー)を行い、業界内に留まらず幅広く知名度の向上に努めました。

このような活動を通じて、今後も当社を目指す「技術と信頼で、自然に優しいインフラづくり」への強い思いを伝えてまいります。



セミナー風景



展示会風景

### 4. 中期経営計画の見直し

2022年度(第62期事業年度)の実績を鑑み、2023年5月に2023年度(第63期事業年度)及び2024年度(第64期事業年度)の数値計画の見直しを行いました。



数値計画  
(当初)

数値計画  
(見直し後)

※詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

## ■ 会社概要 (2023年3月31日現在)

会社名	麻生フォームクリート株式会社
本社所在地	神奈川県川崎市中原区苅宿36番1号
従業員数	103名
設立	1961年(昭和36年)6月1日
資本金	2億920万円
事業内容	気泡コンクリートの現場施工 地盤改良工事の施工 その他工事の施工及び工事施工用資材 (起泡剤等)の商品の販売

## ■ 役員 (2023年6月27日現在)

代表取締役社長	花岡 浩 一
取締役	長谷川 隆 敏
取締役	井上 喜 博
取締役	嘉村 隆 浩
取締役	杉山 嘉 則
取締役	村 関 不三夫 (独立社外役員)
取締役	朝倉 俊 弘 (独立社外役員)
常勤監査役	阿部 新太郎
監査役	沼田 紳 介 (独立社外役員)
監査役	大 瀆 理
監査役	大木 章 史 (独立社外役員)

## ● 主な工事経歴

注 文 者	工 事 名
大成建設株式会社	横浜環状南線桂台トンネル工事
八代港湾工業株式会社	熊本3号 岡山地区改良外工事
株式会社奥村組	西部幹線(長府珠の浦~長府供給所)建設工事
共栄株式会社	道路橋りょう整備(再復)工事(道路改良)深層混合処理工
西松建設株式会社	黒川第一発電所(復旧)工事のうち土木本工事(第2工区)

## ● 支店・営業所

東京支店	神奈川県川崎市中原区苅宿36番1号
大阪支店	大阪府茨木市沢良宜西4丁目15番14号
福岡支店	福岡県糟屋郡須恵町大字須恵714番地1
札幌営業所	北海道札幌市中央区北一条西16丁目1番地27 北海道たばこ会館ビル4F
東北営業所	宮城県仙台市太白区泉崎1丁目32番20号 プレミア泉崎102号室
東京営業所	東京都千代田区神田駿河台3丁目3番 お茶の水伊藤ビル2F

## ■ 株式の状況 (2023年3月31日現在)

■発行可能株式総数	普通株式	12,080,000株
■発行済株式の総数	普通株式	3,413,729株 (自己株式6,271株を除く)
■一単元の株式の数		100株
■株主数		1,403名 (うち議決権を有する株主数1,051名)

### ■ 大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数の割合(%)
株式会社麻生	1,420,000	41.59
株式会社麻生地所	400,000	11.71
麻生商事株式会社	300,000	8.78
宗教法人萬福寺	232,300	6.80
株式会社三井住友銀行	51,700	1.51
榊原 卓丸	42,000	1.23
株式会社西日本シティ銀行	41,000	1.20
麻生興産株式会社	40,000	1.17
麻生 泰	40,000	1.17
麻生フォームクリート従業員持株会	37,400	1.09

(注) 所有株式数の割合は自己株式(6,271株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
及び特別口座の 三井住友信託銀行株式会社  
口座管理機関

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)  
受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)

### ○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○未払配当金の支払について


株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## ホームページのご案内

麻生フォームクリートはホームページ上でも各種IR情報を発信しております。ぜひご活用ください。

<https://www.asofoam.co.jp/>



 **麻生フォームクリート株式会社**

神奈川県川崎市中原区荻宿36番1号

お問い合わせ先 TEL044-422-2061(代表) 財務経理部